

公民館報

発行
2023
3/30

まつもと



- 問い合わせ 中央公民館
TEL 32-1132 FAX 37-1153
- 編集 公民館報編集委員会
- 印刷 株式会社アラルト

昔のあそび

視点

⑩ 学生と住民の交流をこころ
奈川えんがわプロジェクト

奈川えんがわ
プロジェクト
Instagram



学生と住民の縁側

松本市が企画した魅力発見ゼミをきっかけに発足した「奈川えんがわプロジェクト」は、奈川地区に学生が入り込み、地域の住民が気楽に笑い合える縁側のような存在となっています。

信州大学の学生が学部を問わず、多い時には20人以上が参加しています。奈川の特産品である保平カブ収穫の手伝いや、閉園中の保育園を清掃し子どもたちと遊ぶ活動など、広く地域に関わっています。「奈川の今をより楽しく元気に」をテーマにして、やって



代表の東大陽さん (信州大学経法学部)

みたいことに積極的に取り組みます。

何度も足を運ぶ

プロジェクトによって、学生と地域住民の交流が活発になりました。月に1〜2回の頻度で奈川に通う中で、住民とのコミュニケーションを重視しています。縁のなかつた学生たちを、快く迎え入れてくれる奈川地区住民の方々の懐の広さ、温かい人柄など、通わなければわからない良さを知ることができました。

東さんは「カブの農家さんに電話をもらって一緒にお昼を食べたこと、何度目かの訪問で子どもたちが寄って来てくれたことが思い出深い」と笑顔で話してくれました。

続く交流これからも

まちづくりはこうであるべき、という学生の思い込みで関わってはいけないという視点が重要だそうです。「地域」は人の営みが脈々と続いてきたもので、人生を生きるヒントが詰まっている」という東



豊かな自然の中で、保平かぶを収穫する様子

さんの言葉には、これまでの活動の密度の濃さを感じられます。東さんは、活動に関心を持つ後輩たちのために、プロジェクトを継続できる仕組み作りに取り組んでいます。

奈川地区の今を
動画に
収めました!



わがまち自慢 (芳川地区)
芳川地区の公民館報が全国入賞

「写真で表現、文字は少なく」の紙面作り

令和4年度の第9回全国公民館報コンクールで、芳川地区公民館が奨励賞を受賞しました。

前回令和2年度第8回の鎌田地区公民館に続いての入賞です。

レイアウトは大胆に

紙面レイアウトは委員メンバーが設計します。記事面積の半分が写真のスペースです。はつきりとした見出しの字体が目を引きまます。編集会議の紙面デザインで芳川地区版の魅力が生まれます。

もう一つ「芳川の今昔物語」は掲載4話となる長寿のコナーが彩りをそえます。



編集委員は10人「写真で表現、文字は少なく」を実践します



(令和4年9月30日号) 参考



▲市の重要無形民俗文化財「奈川獅子」

文化遺産を後世に

3月11日奈川にて



令和5年3月1日 現在
 総世帯数 8,098世帯
 総人口 17,327人
 男 8,620人
 女 8,707人

**芳川地区
地域づくりセンター**
 ☎58-2034

芳川出張所
 ☎58-2034

芳川公民館
 ☎58-2034

芳川福祉ひろば
 ☎57-0168

※芳川地区地域づくりセンター、
芳川出張所、芳川公民館へのご
連絡は同じ番号となります。

奈川との交流。
 今回のテーマは、伝統の継承です。
 芳川では、野溝の箆(ほうき)づくりを次代につなぐ事業が本格化しています。一方、奈川では、市の重要無形民俗文化財「奈川獅子」と祇園囃子(ぎよんばやし)が文化庁の「地域の伝統行事等のための伝承事業」に採択され、その継承に地域をあげて取り組んでいます。

この程、「ふるさと奈川をおこす会」が奈川文化センターの改修完成記念に、この伝統行事を多くの皆さんに楽しんでもらうイベントを企画。芳川から32名が参加しました。

祇園囃子は、子安諏訪神社の神輿の巡行にあわせて奏でられる囃子行列で、奈川獅子は、寄合渡(よりあひど)集落の天宮大明神のお祭りで奉納される舞です。

獅子舞は、5つのシーンからなり、大獅子と獅子捕りの格闘に、天狗も加って繰り広げられる迫力満点の舞で、会場からは大きな拍手が送られていました。



▲奈川獅子



▲奈川文化センターには多くの皆さんがお越しになりました。

▲祇園囃子

地区生活支援員と公民館でコラボして、新しい学びの機会創出のため企画。

1月は苔玉づくり、樹脂粘土マグネットづくり、2月には本場中国の肉まんづくり、籐のお皿・かごづくりを実施。

3月は大名町の田立屋さんから講師を招いた手のお手入れ講座、そして4月、入園者のためのグッズ製作お手伝い講座の計6講座を実施しました。

さらばコロナ!? 新規講座がラインアップ

1月〜3月にかけて、コロナの状況が落ち着きを見せていたため、新規の講座を企画、実施しました。



▲苔玉づくり



▲樹脂粘土マグネットづくり



◀本場中国肉まんづくり



▲籐のお皿・かごづくり



◀手のお手入れ講座



芳川の今昔物語

村田 正幸

第41話

県道町村白川村井停車場線

村井駅前から善光寺街道村井宿を横断して国道19号線に出るには、狭い通称小池道しかなかった。昭和52年ころ広い直線道路が開通して、渋滞が緩和された。まだ建設途中である。



撮影:昭和52年頃



撮影:令和5年3月3日

道路が整備されて新しい街並みになり、交通量も増えていく。左下の側溝のふたは建設当初のままであろうか？

Vol.6 村井駅舎 ただ今建設中

完成予想パース

青空をバックに、駅舎の骨組みが徐々に出来上がってききました。

前号の西側に続き東側にも新たに鉄骨がお目見え。完成が待ち遠しいですね。

館報編集委員 募集中!

芳川公民館では、隔月で発行されるこの「よしかわ公民館報」の編集委員を、随時募集しております。

仕事内容

2カ月に1回、年に6回発行される、地区版公民館報の編集・取材・製作等を行ういただきます。

月に1度、火曜日に編集会議に参加いただきます。

また、各町会内や学校行事等のイベント取材もお願いする場合があります。

応募条件

特にごさいませんが、芳川が好き、取材・記事書きが好き、カメラが好き、方、ぜひお声がけください。

報酬

基本ボランティアですが、少しあります。

連絡先

芳川公民館 58-2034





対談を行う石井山さん(右)と向井さん

全体会

全体会では、東北大学大学院教育学研究科准教授の石井山竜平さんが「未来に託せる地域を目指す人々の学びと取り組み」と題して基調講演をしました。

東日本大震災被災地復興のプロセスから、ポストコロナにおける地域再生について考える内容で「災害時には地域社会のもととの姿が浮き彫りとなる。否定せず受け入れて、少しずつでもつながっていかばいい。地域づくりの第

未来に託さなく私たちのまちづくりの集い

第38回公民館研究集会 令和4年度地域づくり市民活動研究集会

テーマ
未来を切り拓く学びと自治
ポストコロナにおける地域再生

この集会は2月19日、Mウイングを主会場に開催し、午前の全体会と午後の分科会併せて、約300人が参加しました。

分科会

午後からは8つの分科会に分かれて、テーマごとに事例発表や研究発表が行われました。この中から2つの分科会を紹介します。

第2分科会ではコロナ禍により開催困難となったぼんぼんと青山様を例に、笹部地区PTAと児童会が取り組んだ

一步は毎朝の挨拶から。自ら考え行動できる力をつけていくことが大事。公民館活動が盛んな松本にはそのポテンシャルがある」などと話しました。

講演のあとは、松本大学総合経営学部観光ホスピタリティ科准教授の向井健さんとの対談があり「社会教育や公民館活動を通して、住民同士支えあう関係性が自然と育まれるということ、未来を託す若者や子どもたちに示してほしい」などと話していました。



第1分科会	子供たちの生きる力を高めるために ～地域を舞台とした体験・学びから見えるもの～
第2分科会	松本の伝統行事を次世代につなげよう！ ～ぼんぼんと青山様・三九郎～
第3分科会	「地域行事」って必要なの？ ～現代における地域行事は今～
第4分科会	顔が見える関係づくり ～気軽に使える町内公民館～
第5分科会	誰もが安心して暮らせる地域を目指して!! ～地域包括ケア・生活支援体制整備～
第6分科会	地域防災を進めるために必要なこと ～地域づくりの視点から考える～
第7分科会	ワカモノ×地域=賑わす ～若い世代の地域参加を考えよう～
第8分科会	中山間地域の持続可能な地域づくり ～奈川・四賀の事例から考える～

また「つなげよう青山様・ぼんぼん」と題した児童会新聞を作成し、町会全戸に配布しました。行事を忘れないでほしい、継承してほしいという思いがすごく伝わってきて、コロナ禍での工夫がすばらしい事例だと感じました。

第5分科会には70人が参加しました。このテーマに多く

の方が関心や悩みを持っていることがわかります。地域で実践されている生活支援や居場所づくり、NPO法人との連携による事例発表があり、高齢化、生活支援といった問題にどう取り組んでいけばよいか話し合いました。

最年少で第1分科会のコイデイナーを務めた山田明文さん(小5)は「年配の方が多いので、もっといろんな世代の人に来て聞いてもらいたいです。ほかにも面白そうな分科会があったので、一日だけではなく、何日にも分けていろいろ参加できるようにしてほしいです」と話してくれました。

植え、お世話をされてきたものだ。梅雨の時期には、多種多様な色のアジサイが見事に咲き誇る。小さな株も入ると200本近くもあるようだと「こうして書いてきて、何と贅沢な散歩コースかと改めて思う。これからも里山の自然に感謝しつつ、元気を頂いて散歩に励もうと思ってる。

おこひる

朝の散歩を始めてから8年ほどになる。幼い頃から体力に自信がなかったが、近頃は随分健康になった▼自宅は三十余年前に市が造成した団地の中にある。団地の東側を降りていくと、棚状に並んだ田んぼが見通せて、田植えの時期から稲刈りの頃まで様々な景色を見せてくれる。田植えの終わった水面に朝日が映し出される様は、幻想的で絶景だと、毎年思う。時々見かけるカモの泳いでいる様子は、何ともいえない程可愛らしい▼その日の気分をコースを変えて、アルプスを遠く見渡せる展望台の方から下っていく。遊歩道に沿って植えられた様々な木々の足元には、四季折々に草花が咲いている。これらは、隣家のご夫婦が長年にわたって苗を植え、お世話をされてきたもの。梅雨の時期には、多種多様な色のアジサイが見事に咲き誇る。小さな株も入ると200本近くもあるようだと「こうして書いてきて、何と贅沢な散歩コースかと改めて思う。これからも里山の自然に感謝しつつ、元気を頂いて散歩に励もうと思ってる。

歴史探訪 探ろう松本33

笹賀地区

地区東側は奈良井川で、かつて一帯は桑畑がありました。第二次世界大戦時に造営された松本飛行場に隣接して、信州まつもと空港が作られました。

概要

松本市の南部に位置する笹賀地区は14町会、人口10、688人、世帯数4、647世帯、高齢化率は26・9%です(2月1日現在)。

歴史

笹賀地区には縄文時代からの古墳があり、古くから開けた土地でした。室町時代の今村観音堂の阿弥陀如来像(市重文)も伝えられています。1725(享保10)年、水野氏の改易で戸田氏が藩主となり、1743(寛保3)年



ステージ発表をビデオで見ると、また違う印象

以降幕府領とされ、後に松本藩預り領となりました。

地名の由来

1876(明治9)年の「長野県町村誌」に古事、捧の庄に属すと聞くとあり、笹賀地区は当初笹下村と呼ばれていました。

捧の庄はこの辺一帯にあった皇室の荘園のことです。

合併分離を繰り返す

1874(明治7)年、子神戸・神戸新田・小俣・今村の5ヶ村が合併し、笹下村が誕生しました。しかし水利関係などで合併に無理があり、1879(明治12)年5つの村に戻りました。その後1889(明治22)年全国的な町村合併の流れを受け、5ヶ村が再度合併し、笹下を笹賀に変え笹賀村となりました。

時代は下って1954(昭和29)年8月、前年に施行された町村合併促進法により松

本市と合併し、笹賀地区が誕生しました。



eスポーツって五輪の競技候補なんだって!

公民館活動

コロナ禍でウォーキング大会や町会対抗グラウンドゴルフは中止を余儀なくされましたが、住民の交流を途絶えさせないように、文化祭のステージ発表を、ビデオ撮影したものを放映して、皆さんに見てもらおうと工夫して活動しています。

コロナ前から15年以上続けている、児童の登下校見守りは56人の会員が「安全サポーター」となり活動しています。今後、eスポーツ(コンピュータを使ったゲームをスポーツと捉えた呼称)やVR(仮想現実)による疑似体験にも取り組む予定です。

また、公民館を不登校の子の居場所として「ほっとスペース笹賀」を開設する予定です。

昔の遊び

表紙について



1月17日(火) 午前9時50分~11時30分
3年ぶりに開催。今井小1年生が、地域の皆さんとけん玉、こま、福笑い、紙飛行機など昔の遊びで交流をしました。楽しそうな声が終始飛び交っており、賑やかな時間となりました。

(撮影 2023.1.17 今井公民館)

松本平の野鳥たち



ヤブサメ (2022.4 松本市中山 写真提供:信州野鳥の会)
ウグイスに近い小鳥で、尾がとても短い。全長10.5cm。全身が淡い褐色で眼上部にある眉斑は明瞭(雌雄同色)。広葉樹林で沢沿いの藪のような場所が好みで見かけることは少なく、鳴き声(シィ シィ シィ...と虫のような鳴き声)により気付かされることが多い。しかし、囀りは高音のため、高齢の方には聞き取れないことがあり、松本市の里山では夏鳥として普通だが、気がつく人は少ない。